



陸の水

==== No.63 ====

日本陸水学会東海支部会
 ニュースレター（2014年3月21日）
 発行：日本陸水学会東海支部会
 連絡先：〒501-6021 岐阜県各務原市

川島笠田町官有地無番地
 （独）土木研究所 自然共生研究センター
 小野田 幸生
 Tel: 0586-89-6036、Fax: 0586-89-6039
 E-mail: onodayukio@yahoo.co.jp
 onoda77@pwri.go.jp

日本陸水学会東海支部会第16回研究発表会を振り返って

（独）土木研究所・自然共生研究センター 小野田 幸生

2014年2月22-23日の2日間、三重県鳥羽市答志町の答志島にある民宿「寿々波」において、日本陸水学会東海支部会第16回研究発表会が開催されました（写真1）。参加者は延べ50名に上り、計29件の研究発表が行われました。発表数が多かったため、特別講演を開催しませんでした。多くの発表が行われ、盛り上がった発表会となりました。

研究発表の半数以上が学生によるものでした。学生さんの発表スライドは、卒論や修論などの成果をもとに丁寧なまとめられており、アニメーションなどを駆使したスライドも多かったように思われました。練習を相当重ねた成果だと思われそうですが、発表時に緊張している様子は見受けられませんでした。それでも、質疑が終わって席に戻ると思わず「緊張した～」というつぶやきが聞かれたのは、ほほえましく思われました。

研究発表の分野は、水文水質、水収支、生物、環境教育など多岐にわたり、陸水を対象として様々な研究が実施されていることを再確認できました。

今回のように、一つの会場に皆が集まって、研究を発表したり聞いたりすることで、普段は聞かない内容についても勉強することができました。また、討議なども他分野の方が混ざり合うことで、幅広い視点から研究を見直すことができたと思います。そういう意味で、普段の研究室や研究所でのゼミなどとは異なる雰囲気があり、貴重な体験になったように思われました。



写真1. 会場の「寿々波」
 写真は宿のHPより



写真2. 石田典子支部会長による開会のあいさつ



写真3. 発表会の様子

島での開催で楽しみなのが夕食です。刺身(サザエ、エビなど)、鍋(フグ?入り)、煮漬け(メバル、サザエ、大アサリ)、モズクなどの、大変豪華な海の幸が並びました(写真4)。なかでも、舟盛りで出されたタイは地元でもなかなかお目にかかれない10kgクラスの大物で(写真4)、参加者の中にも記念撮影をされている方がいるくらいでした。夕食後の懇親会は、夜遅くまで続き、社会人、学生さん関係なく、お酒を片手に楽しい交流の時間となりました。

東海支部会が活発なのは、多くの学生さんが参加し、発表会を盛り上げてくれるからだと思います。また、ボランティアとして数人の方が企画・運営に尽力して下さっている裏方の支えも忘れてはなりません。運営に際して、ベル係や案内係をしていただいた学生の皆様、会場設営にご協力頂いた皆様、タイトなスケジュールの中で研究会進行をしていただいた野崎先生、会場選びやスケジュール管理などの調整をいただいた上野先生など多くの方々のご協力を頂きました。本当に感謝しております。

とても楽しい発表会で、みなさんの充実した笑顔に表れていると思います(写真5)。



写真4. 夕食の様子



写真5. 集合写真(会場「寿々波」の前にて)

鳥羽水族館バックヤード見学会（2014年2月23日）報告

静岡大学大学院工学研究科 戸田 三津夫

答志島で開催された研究発表会の帰途、鳥羽水族館見学会を開催した。発表会を行った島の魅力もさることながら、ここを訪れるのも目的の一つ。友人の杉本さんと会うのも何年ぶりになるだろうか。何しろ忙しい人なので見学会の内容は行ってのお楽しみ～ちょっと不安のうちに水族館へ。

14:00の集合時刻に集まったのは24名。学生は一般入館料2400円が2000円になる割引を使う。一人が「学生証忘れた～！」と、ひと騒ぎのあと無事に全員入館。インフォメーションで杉本さん呼び出してもらい。再会ののち参加者一同と簡単な挨拶、「今日はせっかくですからバックヤードをご案内します」と言われ、一同一挙にヒートアップ!!!「皆さんこられますか？希望者は何名ですか？」ですって...お互い顔を見合わせるも離脱者があるわけもなく、当然全員参加。まあ、なにしろ水生生物のような陸水学会東海支部会関係者ですから。



杉本さんもこれにはちょっと驚いていました。私たちって変な人たちなのではないか??

上の写真を見てください。このわくわく状態の一団、右に見える白い扉が内側からしか開かないワンダーランドへの「ひみつの扉」です。

まず案内されたのがコーラルリーフ（珊瑚礁）水槽で、下がバックヤード、左が観客側からの眺めです。ずいぶん雰囲気は違うものです。



次に、「古代魚エリア」水槽の横で、サメやエイの歯、エイのとげの説明を受けました（写真下二枚）。エイのとげには細かい「返し」があって一度刺さると抜けにくいことを学びました。



いったんテラスに出たところで、水族館前の海でスナメリの群れが餌をとる場面に遭遇。館内に戻り伊勢志摩の海（熊野灘：写真左）、スナメリ、アフリカマナティ、ピラルクと見てツアー終了。杉本さんにお礼をいい、おなじみ東海の淡水魚ステッカーを束で渡してお別れ、その後各自観覧へ。水族館の裏ってこうなっているんだ...感動の見学会でした。

最後に、パンフレットの案内図に記憶をたよりに行程を記してみました。



2014年度 日本陸水学会東海支部会 研究助成のご案内

日本陸水学会東海支部会では、以下の要領にて、2014年度の研究助成を公募いたします。ふるってご応募ください。

1. 助成対象

川、溜池、内湾（干潟）、地下水など陸水環境の調査・研究を行っている、あるいは行う意志をもつ個人またはグループです。分野は自然科学、人文社会科学を問いません。また、陸水環境を対象とした環境教育の実践および教材研究も助成対象とします。応募資格は支部会員に限定いたしません。

選考にあたっては、研究機関（小学校、中学校、高等学校は含まない）に所属していない個人・グループを優先的に助成する方針ですが、研究機関に所属する研究者、学生も応募できるものとします。営利を目的とする研究には助成いたしません。大学生、大学院生の方は、卒業論文研究、修士・博士論文研究の一部内容について申請しても構いません。

2. 成果の公表

研究終了後1年以内に支部会研究会発表あるいはニューズレター紙上にて成果を公表して頂きます。

3. 助成金額

予算総額10万円以内で1件以上の助成を行います。

※10万円分の予算まで申請可能ですが、減額して支給する場合があります。

4. 応募書類

以下の項目を含んだ応募書類（A4用紙、様式自由、手書き可）を作成してください。

1) 研究題目

2) 助成を受けようとする個人の氏名またはグループ名

3) 助成を受けて実施しようとする調査・研究課題の内容（1000-1200字程度）

4) 助成金の執行予算案（項目ごとに千円単位で）

例：用品費（消耗品含む）、調査旅費（成果発表のための学会・研究会参加旅費を含めて良い）、謝金（アルバイト代）など。

5) 個人またはグループ代表者の連絡先（電子メールがあればアドレス明記のこと）

5. 応募方法と応募先

下記まで郵送、または電子メールでお申し込みください。

〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町官有地無番地 自然共生研究センター内 日本陸水学会東海支部会 小野田 幸生 宛 E-mail: onoda77@pwri.go.jp

6. 応募締切

2014年5月2日（金）消印有効

7. 結果

本人に通知するとともに、「陸の水」で発表いたします。

第 25 回 東海陸水談話会のご案内

下記の日程で東海陸水談話会を開催いたします。非会員の方の参加も歓迎いたしますので、お誘い合わせの上奮ってご参加ください。なお、団体割引の適用のため事前に名簿を作成する必要があります。小野田 onoda77@pwri.go.jp まで事前にお申込（参加者名、連絡先、当日の来場方法（車・公共交通機関）を明記の上、）下さい。お問い合わせも同じく小野田までお願いします。

講演タイトル： 「水族館における淡水生物の飼育と活動」
池谷幸樹（アクア・トトぎふ 展示飼育部）

- ・日時：平成 26 年 4 月 20 日（日） 13：30～16：00
（講演の終了時刻について、変更する場合があります）
- ・場所：世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ 多目的ホール
- ・集合：アクア・トトぎふ エントランス水槽付近に 13:10 までに集合してください。
- ・住所：〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町 1453 番地 河川環境楽園内
HP：<http://aquatotto.com/>
アクセスの詳細については次頁をご参照下さい。
- ・料金：当日、水族館への入館料が必要となります。
通常一般 1500 円ですが、「陸水学会東海支部会の談話会参加」の旨を連絡すれば、1200 円で入館頂けます。（午前中に館内を見学することもできます。また、入口・出口で再入館スタンプ押していただければ再入館可能です。）
- ・講演会終了後にアクア・トトぎふのバックヤードツアー（1 時間程度）を 1 名様 200 円で企画しております。貴重な機会ですので、この機会に是非ご参加下さい。

■講師紹介

池谷 幸樹（いけや こうき） k-ikeya@aquatotto.co.jp

世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ 学芸員

子どもの頃から生き物が好きで、昆虫や魚、鳥やへびを山や川で捕まえてきては自分で飼っていたことが現在は仕事に。開館立ち上げ時（平成 16 年）より世界淡水魚園水族館（岐阜県各務原市）に勤務。現在、（公社）日本動物園水族館協会の推し進める種保存事業の魚類部門を担当し、水族館を活用した希少種の保全に取り組んでいる。

会場までのアクセス

【車でのご来場の方】

■東海北陸自動車道「川島PA ハイウェイオアシス」より徒歩すぐ。

※川島PA から一般道へは降りられません。

■東海北陸自動車道→一般道を使う場合

- ①東海北陸自動車道「一宮木曾川IC」から国22号に合流（岐阜・高山方面）。
- ②「黒田西石原」の交差点を右折し、県181号に。
- ③「光明寺西」の交差点を道なりに。
- ④「光明寺」の交差点を左折し県150号線を北上。
- ⑤2つ目の橋を越えて最初の交差点「河川環境楽園入口」を左折し、「河川環境楽園中央駐車場（無料）」に到着。
すぐ隣が「アクア・トトぎふ」です。

■一般道利用の場合

国22号線を岐阜方向に走り、一宮木曾川ICを超えてからは、上述の②～⑤の通り。

【公共交通機関でご来場の方】

■JR を利用される方

●JR 岐阜で下車の場合

- ①JR 岐阜駅下車
- ②「JR 岐阜④のりば」より岐阜バスの岐阜川島線（E36 川島松倉行き）に乗車
- ③JR 岐阜→城南通り→八剣→上印食→米野→「河川環境楽園」で下車（片道 530 円）。

●JR 木曾川で下車の場合

- ①下車後にタクシーに乗車し、河川環境楽園（中央駐車場）まで

■名鉄を利用される方

●名鉄岐阜下車の場合

- ①名鉄岐阜駅を下車。
- ②「名鉄岐阜②のりば」より岐阜バスの岐阜川島線（E36 川島松倉行き）に乗車
- ③名鉄岐阜→JR 岐阜→城南通り→八剣→上印食→米野→「河川環境楽園」で下車（片道 530 円）。

●名鉄 新木曾川下車の場合

- ①下車後にタクシーに乗車し、河川環境楽園（中央駐車場）まで



【参考】岐阜バス時刻表

2012年4月1日のデータのため、時刻が多少前後するようです。時間に余裕をもってお越しください。

岐阜川島線（E36 川島松倉行き）

停留所名		
名鉄岐阜②のりば	8:55	11:05
JR 岐阜④のりば	8:56	11:06
城南通り	9:01	11:11
八剣	9:08	11:18
上印食	9:10	11:20
米野	9:21	11:31
河川環境楽園	9:27	11:37

時刻によっては河川環境楽園に停まらないバスもあるようですので、現場の時刻表を各自ご確認ください。

「陸の水」論文集 2014 年の発行および論文集 2015 年の予告

野崎 健太郎（編集委員長，椋山女学園大学教育学部）

「陸の水」論文集 2014 年は、「陸の水 64 号」として 4 月に出版される予定です。支部会員の皆様には無料で配布されます。今回は論文 2 本、資料 3 本に加え、村上哲生博士（名古屋女子大学）と向井貴彦博士（岐阜大学）の編集による特集「田中豊穂教授・山内克典教授の長良川河口堰問題に関する寄与」が掲載されます。特集の内容は、支部会発足時からの会員であり、長良川河口堰の問題に取り組まれたお二人の回顧録と出版目録となります。会員以外には、2,000 円/冊で販売いたします。この価格は、年会費と同額なので、論文集に興味を持たれた方が身近におられましたら入会をお勧め下さい。

論文集 2015 年は、引き続き、野崎が編集委員長を務めさせて頂くことが総会で承認されました。谷口智雅支部会長より委嘱された時点から編集を開始いたします。次々号の「陸の水」（次号は論文集 2013 年になります）にて締切期日等を連絡いたします。投稿規程・執筆要領は「陸の水」論文集 2014 年の巻末に掲載されます。編集体制は以下の通りです。

石田典子（名古屋女子大学文学部）内田臣一（愛知工業大学）宗宮弘明（中部大学応用生物学部）田代喬（名古屋大学工学研究科）谷口智雅（三重大学人文学部）谷口義則（名城大学理工学部）寺井久慈（名古屋大学博物館）戸田三津夫（静岡大学工学部）松本嘉孝（豊橋技術科学大学）村上哲生（名古屋女子大学家政学部）村瀬潤（名古屋大学生命農学研究科）小野田幸生（自然共生研究センター）八木明彦（愛知工業大学）山本敏哉（豊田市矢作川研究所）萱場祐一（土木研究所）野崎健太郎（椋山女学園大学教育学部，編集委員長）

なお、投稿規定に従い、「陸の水」論文集 2013 年に掲載された論文の PDF ファイルを web site 上に公開いたしました（<http://island.geocities.jp/nozaki1968/>）。紙媒体の「陸の水」論文集の発行部数はわずか 100 部程度です。ぜひインターネット上で論文内容を広めていただきたいと思います。

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

野崎健太郎（編集委員長，椋山女学園大学教育学部）

椋山女学園大学教育学部

〒464-8662 名古屋市千種区 星が丘元町 17-3

E-mail : ken@sugiyama-u.ac.jp

2013 年度日本陸水学会東海支部会の活動報告

第 17 回となる総会が、2 月 22 日研究発表会 1 日目の夕刻に開催されました。担当者から事業・会計等について説明があり、審議・承認されました。

・事業実施報告

昨年度の第 16 回総会において承認された事業内容（「当初計画」）と今年度の事業実施状況を次の表にて報告いたします。

活動項目	当初計画	実施状況
ニュースレター発行	年間 4 号	6 月 (No.58, 59)、10 月 (No.61)、12 月 (No.62) に発行。電子版でも配信。 ※ No.60 は論文集
論文集発行	年間 1 号	陸の水論文集 2013 (陸の水 No.60 に該当) を 7 月に発行
サマースクール	夏 1 回実施	2013 年 8 月 31 日、9 月 1 日に中池見湿地・三方五湖で実施。陸の水 61 号に報告記事掲載。
談話会	秋 1 回実施。	<p>■ 第 22 回談話会 7/27 (土) 13:30~16:00 「原発事故の生物影響調査：チェルノブイリとフクシマの比較」 Tim ムソー 氏 (サウスカロライナ大学教授)</p> <p>■ 第 23 回談話会 9/1 (日) 10:00~12:00 「三方五湖の縄文環境一年縞と鳥浜貝塚から」 小島 秀彰 氏 (若狭三方縄文博物館)</p> <p>■ 第 24 回談話会 11/17 (日) 13:30~16:00 「インドネシアスラウェシ島におけるメダカ採集・調査と飼育への応用」 田中 理映子 氏 (名古屋市東山動物園・世界のメダカ館)</p>
見学会	冬に実施	2013 年 11 月 17 日に実地。メダカ館バックヤードの見学 2014 年 2 月 23 日に実施。鳥羽水族館の見学
助成金	総額 5 万円で 1 件以上採択	応募なし。
学会公式 HP		http://island.geocities.jp/limno_tokai/index.html に開設。活動状況・予定など随時更新中。

総会・研究発表会	2月に実施	2012年2月22,23日に実施(三重県答志島にて)。
教科書販売: 身近な水の環境科学		<ul style="list-style-type: none"> 1冊定価2,600円(税別)のところ、2,300円(著者割引相当)で2冊販売。 東海の淡水魚シール販売

・予算決算書

本年度の収支の状況を以下の通り、ご報告いたします。

【収入】

費目	予算	決算	備考
前年度繰り越し金	830,175	830,175	
会費収入	214,000	153,000	一般71、学生9、家族2
	115,000	40,000	過年度分会費収入(2010-2012年分)
雑収入	150,000	339,266	論文集別刷代147,300、教科書2冊4,600など
寄付金	0	0	
利息	0	10	
総計	1,309,175	1,184,805	

【支出】

費目	予算	決算	備考
郵送料	15,000	13,820	陸の水論文集郵送料、庶務・会計に係る通信費
ニュースレター発行費	3,000	0	封筒、切手代など
要旨印刷費	48,000	45,968	第16回研究発表会要旨集印刷代(120部)
事業費	150,000	111,030	総会助成、サマースクール助成、談話会の講師謝礼など
論文集発行費	330,000	381,734	陸の水第四論文集印刷代など
雑費	10,000	1,480	振り込み手数料など
予備費	753,175	0	
総計	1,309,175	554,032	次年度繰越金630,773円

・次年度事業計画

1. 論文集の発行(直近は3~4月、随時募集)
2. ニュースレター「陸の水」発行:年間4号
3. サマースクールの開催
4. 談話会の開催(年間2回、春・秋に実施)
5. 見学会の開催(秋か、研究会にて実施)
6. 総会・研究発表会の開催:例年2月開催
7. 研究助成(4月に前倒し実施。応募無しの場合には、写真コンテスト※を開催予定)
※予算の有効利用と会員間の交流を図る目的で提案され承認されました。

・予算については以下の通りです。

【収入】

費目	予算	備考
前年度繰り越し金	630,773	
当年度会費収入	225,000	会員 120 名（特別会員 1、一般会員 103、家族 2、学生 13、団体 1）
過年度分会費収入	84,000	前年度（2013 年 42,000 円）、前々度（2012 年 42,000 円）の会費徴収
雑収入	150,000	論文集販売（50,000 円）、別刷り代（100,000 円）
寄付金	0	
利息	10	
総計	1,089,783	

【支出】

費目	予算	備考
郵送料	15,000	庶務・会計に係る通信費
ニュースレター発行費	20,000	陸の水の送料、封筒・切手代など
要旨印刷費	48,000	第 17 回研究発表会要旨集印刷代
事業費	200,000	総会等補助、研究助成（あるいは写真コンテスト開催費）、談話会等の講師謝礼など
論文集発行費	400,000	論文集印刷代、送料
雑費	10,000	振込み手数料など
予備費	396,783	幹事会開催時の交通費実費など
総計	1,089,783	

・次年度役員体制（任期 2 年間）

2014 年度は、会長、4 名の幹事、会計監査が新たに就任します（*：新役員）。

会長：*谷口 智雅（三重大学）

幹事：*岡田 直己（岡田トマト農園）・庶務（ただし 2014 年度のみ）

幹事：小野田 幸生（土木研究所自然共生研究センター）・ニュースレター編集

幹事：*白金 昌子（豊田市矢作川研究所）・広報（HP 管理）

幹事：*中村 早耶香（名古屋女子大学）・会計

幹事：*新實 智嗣（株式会社 水地盤研究所）・事業担当

会計監査：*内田朝子（豊田市矢作川研究所）

（※ 幹事は五十音順）

※なお、新体制では幹事の人数が旧体制よりも少ないため、行事の催行などに必要に応じて増員も可能であることが確認されました。

退任幹事のご挨拶

3月限りで任期をむかえた幹事による挨拶を掲載させていただきます。

2013年度の学会活動の最後である東海支部会研究発表会が終了しました。発表会では、例年どおり、アットホームで自由闊達な雰囲気の中で、陸の水にかかわる現象について刺激を受けつつ学び、交流するという機会が得られました。昨年、今年と多くの学生の発表があったことは、研究活動を通じて、若い世代の腕力と知力を鍛えたあかしで、指導に当たられた先生方ならびに支部会の大きな実績であると思います。今後とも支部会では、分野・領域・方法などについて多岐にわたる研究活動に触れることができるという点を大切にさせていただきたいと願います。年度末の忙しい時期でもあり、研究発表会の開催地が島でもあり、さまざまな御事情から参加できないという方もいらしたと思います。今年の中池見湿地での夏のサマースクール、答志島での研究発表会といずれも遠出をしました。その意味としては、日頃の忙しさをちょっとわきに置いて交流するという東海支部会の伝統？に幹事会として共感したこと、さまざまな場を見る機会を提供するという考えがあったことをご理解いただければと思います。

会の円滑な運営には、適度な会員数と会員の皆様のお力添えが必要であると切に感じます。多くの皆様に、談話会、研究発表会および論文集への投稿という機会を通じて、積極的な支部会活動への参加をお願いいたします。また、あわせて身の回りの方々への会の普及、特に教育現場への啓発について今後とも引き続きご尽力をお願いしたいと思います。さらに、学生の方々には、水に関わる研究活動を離れても、研究活動の中での達成感や経験を後輩に伝えていただきたいと思います。

このたび、新会長に任を引き継ぐことができました。2年間の会員各位のご厚情とご協力に、心より感謝いたします。また献身的に会の運営を担っていただきました幹事の皆様に深くお礼申し上げます。

名古屋女子大学 石田 典子

2008年に椋山女学園大学の野崎准教授と当時支部会長の愛知工業大学の八木教授のお二人からHP作成の依頼を受けたことがはじまりでした。HPの運営は当初はもっと情報を事細かに載せて行きたいと意気込んでいましたが、なかなかうまく行かなくてずるずると現在までやってきてしまいました。支部会員や幹事のみなさまには大変ご迷惑をお掛けしたのではないかと思います。次年度からのリニューアル&パワーアップを期待しています！

余談ですが、私は愛知県内の民間会社で環境分析をしておりますが、滋賀県琵琶湖博物館のはしかけ制度を利用して「たんさいぼうの会」に所属しています。一般の人がプランクトンの分類や生態の研究ができる集まりです。東海地区でも研究者の方にプラスして一般の方々に東海支部会の活動に参加してもらえらる機会が増えることを願っております。

たんさいぼうの会 石川 雅量

思えば、寺井先生に誘われて学生をつれて談話会に参加させていただいたのが本支部会との最初のつながりでした。次期幹事に入ってくれと言われ、時間が取れないのでとお断りしたのが、長野県の阿南少年自然の家での研究発表会でした(2011年度末?)。結局2012年に名古屋で全国大会が開催されるから大会Web担当で入って!と寺井先生と宗宮先生にダブルで口説かれ、本会への入会とともに支部会の幹事に入れていただくことになりました。以来、主にイベントのフォロー役を務めました。仕事が雑で多々ご迷惑をおかけしましたが、楽しい2年間でした。せっかく自分が参加するなら、行きたいところに行くぞ!というコンセプトでわがまま放題な発言を重ねて参りました。石田会長をはじめ、幹事の皆様には暖かく受け入れていただきましたことに、心より感謝いたします。本会は、学部生が参加して素直に愉しいと感ずることのできる、規模も大きすぎない教育的なよい場だと思います。幹事は退任いたしますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

中部大学 応用生物学部環境生物科学科 上野 薫

2011年の浜松市での静岡大演習林開催の研究会と総会で就任、交代のタイミングがわからず3年間庶務幹事をつとめました。遠方からメールをたよりの意思疎通がうまくいったかどうか。会長、幹事をはじめ皆様にご迷惑をおかけしたと思ひますがご容赦ください。根が「いちびり※」などところがあるので余計で突飛なことを提案しては余計な負担をおかけしたかもしれませんが、少しは楽しんでいただけたでしょうか?

これからもできるだけ行事には参加しますのでこれからもよろしくお願い致します。天竜川のダムのこと気にかけてください。また、名古屋での懇親会、少し早い時間にはじめていただければ幸いです。

静岡大学 戸田 三津夫

※「いちびり」とは、近畿方言の名詞である。ふざけてはしゃぎまわること、あるいはふざけてはしゃぎまわる人(お調子者、目立ちたがり屋)。「調子に乗る」を意味する動詞いちびる(調子に乗る)が名詞化したものである(Wikipediaより。編集者が転載)。

今回幹事を退任いたします、東山動物園の水野です。仕事の性質上定例の幹事会になかなか参加できず、他の幹事の皆様に私の分まで助けていただき、まことに申し訳なく思っています。また、機会がありましたら東山動物園・世界のメダカ館で見学会等を開催できたらと考えております。それ以外にも動物園にもぜひお越しいただけましたら幸いです。よろしくお願い致します。

名古屋市東山動物園 水野 展敏

なお、会計担当だった内田朝子さんは会計監査として、会計監査担当だった岡田直己さんは庶務として、役員を担当することになりました。

会費納入のお願い

納入方法として、下記ゆうちょ銀行への振込、もしくは談話会や研究発表会などでの直接的なお支払いも受け付けております。ゆうちょ口座から通帳かカードで ATM 振込だと手数料無料となります（ATM 送金料金が無料となるサービス期間は平成 26 年 9 月 30 日までだそうです）。会費納入状況が不明な場合は事務局までご照会ください。2 年度分の会費が未納の方は、規約に従い、翌年度には自動的に退会となりますのでご承知おきください。その際も、未納会費 2 年分のお支払いをお願いしております。

年会費：一般 2,000 円、学生（大学生以上）1,000 円、高校生以下は無料、
団体 4,000 円、家族 3,000 円

振込先が変わりましたので、ご注意ください！

<ゆうちょ銀行からお振込みの場合>

記号：12120-2 番号：73385891

名前：日本陸水学会東海支部会

<他の金融機関からお振込みの場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店名：二一八（読み ニイチハチ） 店番：218

預金種目：普通預金 口座番号：7338589

カナ氏名（受取人名）：ニホンリクスイガツカイトウカイシブカイ

（カナ氏名は、システム上小文字を大文字にする等、一部変換して表示してあります。）

会員の現状

会員 119*名（特別会員 1、一般会員 102、家族 2、学生 13、団体 1）*総会後に 1 名退会

なお、以下の方々は退会されました（会員番号順、敬称略）。なお、名簿整理の関係上、今回は 2013 年退会者だけでなくそれ以前に退会された方も含めてあります。

古田正次、原田文男、伊佐治知明、大沼淳一、千藤克彦、高橋和志、田中利文、田中庸夫、渡辺栄次、横山光伯、服部重昭、舟橋純子、小鹿亨、石川雅量、加藤由紀子、芳山陽子、服部洋三、稲垣聡、加藤博明、杉野明日香、今井克彦、磯部吉邦、毛受一博、林裕美子、吉村千洋、古畑寿、野澤利治、佐川志朗、加藤美奈、安佛かおり、五島暢太、鈴木杏彩、大島啓、佐藤利行、小川光寛、北村淳一、足立守、森照貴

以上

（編集後記）

暖かい日が多くなり春を感じられる今日この頃です。本号では、研究助成のお知らせを掲載しました。知り合いの方に紹介頂くとともに、学生さんなどからの積極的なご応募お待ちしております。

（小野田 幸生）